



夏井川渓谷 (いわき市)
多くの滝や淵が変化に富んだ景観をつくり、ヤマモミジ、ウリハダカエデなどが鮮やかな色を見せる紅葉の名所。昭和28年3月に夏井川渓谷県立自然公園に設定され、四季折々の景色を見ることができる。



株式会社アサカ理研

JASDAQ 証券コード：5724

株主の皆様へ

第47期株主通信

平成25年10月1日から平成26年9月30日まで

個人投資家の皆様へ

詳しくはホームページを
ご覧ください。

<http://www.asaka.co.jp/>



■ トップインタビュー

株主の皆様におかれましては、平素より当社の活動に多大なるご支援、ご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに平成26年9月期の事業概況、及び今後の見通しについてご報告申し上げます。

Q1. 平成26年9月期の業績についてお聞かせください。

【大規模技術開発投資により経常損失となるも企業価値の向上を目指す】

当期（平成26年9月期）当社の主力製品である金の価格は、ドルベースでの価格下落を受け、前年度の価格水準を下回って推移する一方、銅の価格は、平均で前年度をやや上回る水準となりました。また、当社グループの経営成績に影響の大きい、電子部品・デバイス工業分野においては、スマートフォンやタブレット端末の普及、車載電子機器の増加等の流れによって、世界的な需要は拡大しつつあるものの、国内での生産活動は、総じて低調に推移するとともに、使用される貴金属の量は緩やかな減少傾向にあります。

当社ではこのような事業環境の中、貴金属事業・環境事業に次ぐ事業の柱を育てるべく、レアメタル・レアアースのリサイクル技術確立に向けた積極投資を行いました。また、4月にはマレーシアのTWINKLE METAL社（現ASAKARIKEN (M)）の株式の60%を取得し、連結子会社といたしました。

この結果、当期の売上高は、8,189百万円、営業損失は402百万円、経常損失は416百万円となりましたが、補助金収入443百万円を特別利益として計上したことによって、当期純利益は26百万円となりました。

Q2. 当期の取り組み、そして今後の見通しについてお聞かせください。

【レアメタル・レアアースリサイクルの事業化を目指す】

当社は、今年度、経済産業省、ならびに福島県の補助金の採択を受け、独立行政法人日本原子力研究開発機構と共同で、新しい溶媒抽出技術である、エマルジョン・フロー法によるレアメタル・レアアースの回収精製技術の確立に取り組んでまいりました。

エマルジョンフロー法は、同機構が開発した基礎技術で、従来の溶媒抽出技術に比べ、格段に抽出効率が高いことが特徴です。また、コンパクトかつシンプルな装置を使用し、低コストで迅速な回収ができるうえ、分離した元素を濃縮する性能も備えております。更に、排水への溶媒の混入が少ないため、環境にやさしい技術でもあります。

その進捗状況については、この8月に研究開発拠点であるいわき工場を竣工し、実証設備での試験を行いました。既に発表しております通り、経済産業省の補助金事業のテーマになっておりました、光学レンズ廃材からのランタン及びガドリニウムの分離・精製に成功しております。



代表取締役会長

代表取締役社長

山田慶太 野納敏展

今後は、生産技術の確立によって、現在進めている研究テーマの実用化を目指すとともに、他の分野からのレアメタル・レアアースリサイクルにもチャレンジし、日本国内でのレアメタル・レアアースの安定供給に貢献していきたいと考えております。

翌連結会計年度の当社グループの売上高は、微増となる8,200百万円（当連結会計年度比0.1%増）を見込んでおります。営業利益は、126百万円（当連結会計年度は402百万円の営業損失）、経常利益は118百万円（当連結会計年度は416百万円の経常損失）と技術開発投資の一巡により、営業・経常黒字化を計画しています。当期純利益は、129百万円（同394.0%増）を見込んでおります。なお、上記金額の算出基準となっている金属の想定価格については、金：4,000円/g、銅：680円/kgとしております。

Q3. 株主の皆様へのメッセージをお願いいたします。

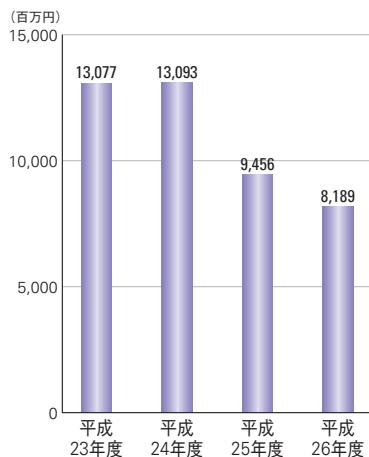
【今後も当社は、競争力のある新分野を開拓していきます】

当社は、新しい事業の柱を築き、さらなる成長を遂げることを目指して、新規事業開発のための新技術の実用化、海外での事業展開という、二つの大きなチャレンジをしております。

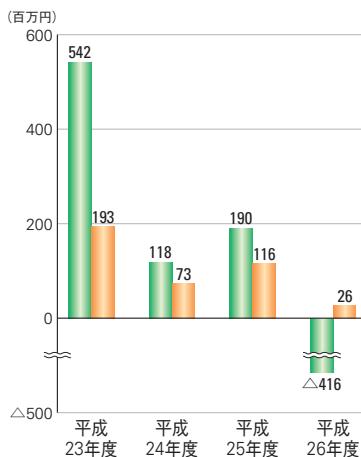
当期の積極投資による営業・経常赤字から一転し、平成27年9月期は黒字化の計画としておりますが、ここがゴールではありません。新技術を実用化して、早期の収益貢献を目指すとともに、海外での事業展開も加速させ、さらなる成長に向けて、チャレンジを続けてまいります。

これらの目標の達成に向けて、これからも従業員一丸となって努力してまいりますので、株主の皆様におかれましては、今後ともなお一層のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

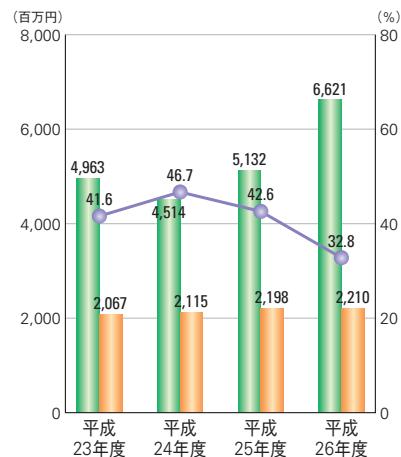
売上高



経常利益、当期純利益



総資産、純資産、自己資本比率



■ 経常利益 ■ 当期純利益

■ 総資産 ■ 純資産 ● 自己資本比率

■ 当連結会計年度の概況

■ 貴金属事業

当事業の主要なお客様が属する電子部品・デバイス工業分野の生産は、前年度と同程度の水準で低調に推移しましたが、取引先の開拓等によって、貴金属の総取扱数量は増加いたしました。一方、貴金属の販売価格は、前年度の水準を下回りました。また、取引形態変更による受託加工取引の割合が増加したことによって、貴金属の販売数量は前年度実績を下回りました。この結果、売上高は、7,356百万円（前連結会計年度比15.0%減）となりました。セグメント利益は、貴金属価格の下落、製品構成の変化による売上総利益の減少、海外子会社取得に伴う費用増加、及び新市場開拓のための営業費用の増加によって、438百万円（同41.3%減）となりました。

■ 環境事業

当事業の主要なお客様が属する電子回路基板業界の生産は、減少が続いており、電子回路基板向けエッチング液及び銅ペレットの販売数量は、前年度の実績を下回りました。一方、銅ペレットの平均販売価格は、前年度を上回る水準となり、新規事業である光触媒事業での販売も伸びたことから、売上高は751百万円（同0.1%増）となりました。セグメント利益は、新規事業の拡大やコスト削減等の効果によって、85百万円（同13.9%増）となりました。

■ その他

その他に含まれるシステム受託開発事業及び運輸事業の売上高は、214百万円（同3.5%増）となり、セグメント利益は、20百万円（同133.1%増）となりました。

■ 連結財務諸表

連結貸借対照表（要約）

（単位：百万円）

	当期 (平成26年9月30日)	前期 (平成25年9月30日)
資産の部		
流動資産	3,471	2,781
固定資産	3,150	2,350
有形固定資産	2,960	2,175
無形固定資産	22	23
投資その他の資産	167	150
資産合計	6,621	5,132
負債の部		
流動負債	1,704	1,712
固定負債	2,706	1,220
負債合計	4,410	2,933
純資産の部		
株主資本	2,153	2,164
資本金	504	504
資本剰余金	339	339
利益剰余金	1,356	1,367
自己株式	△46	△46
その他の包括利益累計額	19	20
新株予約権	14	12
少数株主持分	23	—
純資産合計	2,210	2,198
負債純資産合計	6,621	5,132

連結損益計算書（要約）

（単位：百万円）

	当期 (平成25年10月1日～ 平成26年9月30日)	前期 (平成24年10月1日～ 平成25年9月30日)
売上高	8,189	9,456
売上原価	6,977	7,944
売上総利益	1,212	1,511
販売費及び一般管理費	1,614	1,308
営業利益又は営業損失(△)	△402	203
営業外収益	27	28
営業外費用	41	41
経常利益又は経常損失(△)	△416	190
特別利益	446	－
特別損失	1	0
税金等調整前当期純利益	28	189
法人税、住民税及び事業税	1	76
過年度法人税等戻入額	△7	－
法人税等調整額	12	△3
少数株主損益調整前当期純利益	21	116
少数株主損失(△)	△4	－
当期純利益	26	116

連結キャッシュ・フロー計算書（要約）

（単位：百万円）

	当期 (平成25年10月1日～ 平成26年9月30日)	前期 (平成24年10月1日～ 平成25年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△598	388
投資活動によるキャッシュ・フロー	△213	△576
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,303	429
現金及び現金同等物に係る換算差額	△2	1
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	489	243
現金及び現金同等物の期首残高	683	439
現金及び現金同等物の期末残高	1,172	683

■ 新拠点「いわき工場・生産技術開発センター」が完成（福島県いわき市）

● いわき工場・生産技術開発センターの目的

生産技術開発センターでは、新しい溶媒抽出技術（エマルションフロー法）を核に、廃棄物等からレアメタル・レアアースを効率よく分離・精製する技術を確立し、事業化を目指してまいります。また、一部の生産機能を本社工場から移管し、いわき工場として、生産活動を開始いたします。

● 幅広い希少金属の精製を目指します

エマルションフロー法を用いた溶媒抽出技術は、物質のわずかな性質の違いを捉え、分離することが可能です。よって幅広い元素に応用できる可能性があります。また、従来の技術に比較して低コストでの分離・精製が可能であることから、これまで採算が合わなかった元素をリサイクルできる可能性があります。

今後は、現在進めているランタン、ガドリニウム等の元素の回収実用化を目指すとともに、他の分野からのレアメタル・レアアースリサイクルにもチャレンジし、日本国内でのレアメタル・レアアースの安定供給に貢献していきたいと考えております。



● 施設概要

竣工	／平成26年8月
所在地	／福島県いわき市泉町黒須野字江越246-23
土地面積	／34,355㎡
建物延床面積	／3,959㎡

■会社概要

商号	株式会社アサカ理研
本社	〒963-0725 福島県郡山市田村町 金屋字マセ口47番地
設立年月日	昭和44年8月25日
資本金	504,295,600円
事業内容	
①貴金属事業	金地金、銀地金、白金地金、パラジウム、貴金属回収精製処理及び販売、各種治具の洗浄・再生、機能部品の再生及び販売
②環境事業	塩化第二鉄廃液の再生・販売、銅粉の回収、銅ペレットの製造・販売、水処理事業、光触媒事業
③その他の事業	自動計測検査システム、計測ネットワークシステムの開発及び販売、工業薬品の運搬、廃液の収集運搬

■役員 (平成26年12月19日現在)

代表取締役会長	山田 慶太
代表取締役社長	野納 敏展
取締役兼執行役員	志村 高史
取締役兼執行役員	佐久間幸雄
取締役	熊谷 巧
取締役	三崎 秀央
常勤監査役	大谷 勝男
監査役	遠藤 政勝
監査役	森 勝房

(注) 1. 取締役熊谷巧氏及び三崎秀央氏は、社外取締役であります。
2. 監査役大谷勝男氏及び遠藤政勝氏は、社外監査役であります。

■株式の状況

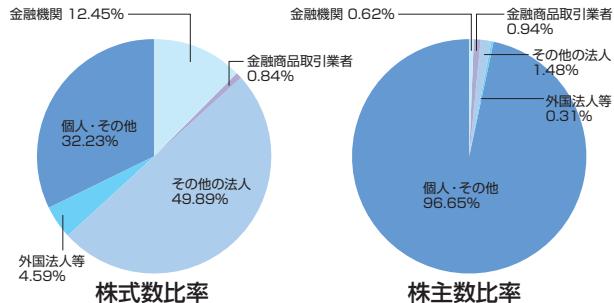
発行可能株式総数	10,200,000株
発行済株式総数	2,572,300株 (自己株式84,798株を含む)
株主数	1,423名

■大株主の状況

株主名	当社への出資状況	
	持株数(株)	持株比率(%)
有限会社モラル・コーポレーション	718,030	28.87
株式会社M&F	340,000	13.67
野村ホールディングス株式会社	100,000	4.02
株式会社常陽銀行	90,000	3.62
株式会社東邦銀行	81,100	3.26
日本生命保険相互会社	72,500	2.91
吉野友裕	50,000	2.01
第一生命保険株式会社	50,000	2.01
東京中小企業投資育成株式会社	50,000	2.01
アサカ理研社員持株会	45,400	1.83

(注) 当社は自己株式(84,798株)を保有しておりますが、議決権がないため上記に含めておりません。また、持株比率は自己株式を控除して計算しております。

■所有者別分布状況



(注) 上記比率は、当社保有の自己株式(84,798株)を控除して計算しております。

■ 株主メモ

事業年度	10月1日～翌年9月30日
配当金受領株主確定日	9月30日
	なお、中間配当を実施するときは3月31日
定時株主総会	毎年12月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL：0120-232-711（通話料無料）
特別口座の口座管理機関	東京証券代行株式会社
同連絡先	東京証券代行株式会社 事務センター 〒168-8522 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 TEL：0120-49-7009（通話料無料）
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.asaka.co.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

ご注意

- (1) 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- (2) 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、東京証券代行為口座管理機関となっておりますので、東京証券代行にお問合せください。株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行ではお手続きできませんので、ご注意ください。
- (3) 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

背戸岨廊(いわき市)



いわき市出身の詩人・草野心平の命名によるもので、夏井川溪谷の支流の一つ。「背戸」は隠れたところ、「岨廊」は崖壁がそそり立つさまを表現している。奇岩怪石と大小10以上もの滝が続き、激しい流れと静が変化に富んだ景色を作り出す。

福島の旅が丸わかり!!

で検索 <http://www.tif.ne.jp>

うつくしま観光プロモーション推進機構（財団法人福島県観光物産交流協会 内）

福島市三河南町1番20号コラッセふくしま7階 TEL：024-525-4024